



海外交流

## 留学生教育の現場から

中村 収 三\*

## Interacting with International Students

**Key Words** : Osaka University Short-term Student Exchange Program(OUSSEP),  
Non-tariff Barrier, International English

## 短期交換留学プログラム

1996年10月から画期的な新しい交換留学プログラムが始まりました。大阪大学短期交換留学プログラム(OUSSEP)です。通常の留学生受け入れ制度では、留学生はあらかじめ日本語に習熟しているか、来日後、半年あるいはそれ以上、日本語の学習に専念する必要があります。OUSSEPはこの制約をはずし、一年間にかぎり大阪大学で英語で授業を受けられるようにした、いわば促成留学プログラムです。日本政府が今世紀中の実現を目指している「留学生10万人計画」や、アメリカとの間の留学生不均衡是正のために、文部省が推進している政策にそったものです。

英語での授業は、各学部の教官がこのプログラムのために特別に準備したもので、文化、経済から科学、技術までの広い分野にわたっています。今年度は理系と文系の授業が各学期それぞれ4科目ずつ提供されています。これらの授業は「国際交流科目」として正規の学生や他の留学生にも公開されています。多くの授業には、

専門分野や学年を問わず広範な学生が受講できるように、配慮がなされています。また discussion, AV教材, field-trip 等も積極的に取り入れています。OUSSEPの学生はそのほかに、初級または中級日本語の授業を受けたり、自主研究を行ったりすることが出来ます。また学内外の各種国際交流行事にも参加できます。

このプログラムに参加する学生は、多くの分野に興味を持ち、視野を広げ、国際理解と相互尊敬を深めるよう期待されます。OUSSEPの副題は“Culture, Science, and Technology, Osaka, Japan, and the World”です。

OUSSEPは各部局の代表からなる留学生委員会が運営にあたる全学プログラムです。学生はそれぞれの専門分野の学部の特別聴講学生として在学し、自主研究も各学部の教官が指導にあたります。留学生センターはプログラム全体の進行・調整と日本語教育を担当しています。

OUSSEPの学年は10月から2月の秋学期で始まり、3月から7月の春学期で終わります。今年度の学生はアメリカ7、カナダ6、韓国5、オーストラリア3、タイ1の計22人です。いずれも大阪大学と大学間ないし学部間学術交流協定(単位互換および授業料相互免除条項を含む)を締結している大学に在籍中の学生です。プログラム修了後は母校に戻って学業を続けることが条件になっています。母校の3年または4年生が原則ですが、一部大学院生も受け入れています。今年度の学生は全員が(財)日本国際教育協会から渡航費と生活費の支給を受け、大阪大学または同協会の留学生会館に入居すると

\*Shuzo NAKAMURA  
1937年10月27日生  
1964年シカゴ大学理学部化学科博士課程修了  
現在、大阪大学、留学生センター、教授、Ph.D., 物理化学、比較技術論  
TEL 06-879-7127  
FAX 06-879-7119  
E-Mail k62390@center.osaka-u.ac.jp



いう恵まれた処遇を受けています。

### 留学生と非関税障壁

ところで私は、1996年9月1日付けで大阪大学留学生センター教授に任命され、短期留学プログラムを担当しています。大学に勤めるのも、留学生の世話をするのも初めてですが、留学経験だけは一人前にあります。1960年、京都大学工学部を卒業したばかりの文無しの私は、貨物船にただで乗せてもらって太平洋を渡りました。カナダとアメリカの大学で Teaching Assistant や Research Assistant として学費をもらいながら大学院を修了しました。その後アメリカの企業の研究所でも Postdoctoral Fellow として研究をさせてもらいました。当時の日本は貧乏だったし、日本人留学生もほんのわずかしきありませんでした。大学院時代の私はいつも貧乏で、ハングリーでしたが、授業と、研究と、teaching に忙しい中で、視野を広げ、得難い経験を重ねたのでした。旧敵国からの留学生をおおらかに受け入れてくれた北米社会に今も深く感謝しています。私はその後30年の間日米の企業で仕事をしました。そして今、大阪大学で世界各国の若者の世話をすることに大きな喜びを覚えています。

さて大学に来て4ヵ月、改めて強く感じていることの一つは、日本という国は、その将来を担うべき優秀な学生たちをひどく冷遇しているのではないかと言うことです。カナダでもアメリカでも私は普通の大学院生と全く同じに扱ってもらったに過ぎませんでした。文無し留学生にもそれで十分だったのです。理系の大学院生は国籍を問わず必ず Scholarship か Assistantship をもらっていましたし、希望すれば立派で清潔な寮に住むことも出来ました。そもそも私が36年前留学を志した理由の一つは、日本では大学院に行く学費がなかったことでした。日本の奨学金制度は少しは改善したようですが、基本的な事情は変わっていないようです。

日本の大学で留学生を受け入れるのに一番の問題は留学生寮が足りないことです。しかし留学生寮なるものが必要なこと自体が問題です。そもそも一般学生用の学寮が初めからほとんど

無いのです。ふだん当たり前のことのように見えていますが、日本社会の“貧しさ”を表しているように思います。全国の一等地に進学予備校の立派な校舎が林立していますが、大学寮は建たないのです。寮に入れないからアパートに住もうとすると高い家賃と保証金や保証人が必要です。特に関西地区の保証金は法外です。やっと住居が決まって電話をつけようとする、また、まとまったお金が必要です。レンタルの電話にもやっぱり保証人が必要です。

幸い学寮に入れてもその維持・清潔度ははなはだ不十分です。留学生寮も例外ではありません。寮の清掃のための予算がほとんど無いのです。大学の学舎も同じ状態におかれています。そう言えば小学校から教室の掃除も生徒たちが当番でやりました。学寮も寮生自治が伝統です。そんな風に留学生に説明していますが、苦しい言い訳と聞いていることでしょう。

言葉や授業はともかく、学費に関しても、住居に関しても一般学生と同じように扱うことで、優秀な留学生が集まるようになりたいものです。留学生を特別扱いして10万人集めても、その真の目的を果たすのは難しいでしょう。留学生を日本人学生と一緒に寮に住まわせて、初めて本当の国際交流が果たせるようになるでしょう。今世紀中にそのような日が来るのでしょうか。日本の大学生一般に対する処遇は、先進諸国に比べるとひどく淋しいものです。幸い今年の OUSSEP 留学生は現状を良く理解しハッピーにやってくれています。当面はハードの不足をハートで補って行くのが私たちの仕事になりそうです。詳しく論じる紙数がありませんが、国際ビジネスに係わってきた目には、留学生受け入れ問題と、貿易摩擦の問題がダブルで見えるのですが、いかがお考えでしょうか。

### 国際英語(International English)

OUSSEP の公式言語は英語です。当然英語圏からの学生が主体ですが、非英語圏からの留学生もいますし、日本人学生も一緒に授業を受けます。非英語圏からの留学生の場合 TOEFL 550 点が必要要件となっています。TOEFL 550 と言えば、平易な英語をゆっくり正確に発音す

ればお互い十分話が通じる英語力です。しかし英語圏の学生が好きなペースで話したのではついて行けません。ましてや彼等同士で勝手に議論を始めるともうお手上げです。その上英語圏の学生は積極的に発言するように習慣づけられていますし、授業でも学生同士で議論することを奨励されてきています。ともするとOUSSEPの授業は英語圏の学生に占拠されかねません。

そこでOUSSEPの公式言語は“TOEFL 550の英語”ということにしています。非英語圏の学生はもちろん英語力の向上に努めねばなりません。英語圏の学生にはTOEFL 550以上の英語を使わないように指導しています。「君たちの重要使命は国際理解だ。平易な英語をゆっくり正確に話さない。早口や、難しい表現や、

不明瞭な発音は国際対話を阻害する。文章でも不必要な修辭は国際理解には弊害にしかならない。授業中の議論も学生同士の議論は遠慮して、必ず先生にむかって発言しなさい。これがOUSSEPのルールだ。」と。

一般社会でも英語が国際言語ということになっていますが、全く同じことがいえます。ゆっくり、正確に発音された平易な英語が国際英語であるべきです。幸い英語圏でも Simple & Plain English が潮流になっています。複雑な事柄を平易な言葉で表現するのは決して易しいことではありません。日本語に置き換えて考えればお分かり頂けると思います。

なお、この文章は余り詮議なさらないようお願いいたします。

